

科目名	アフレコ I							年度	2026
英語科目名	Postlooping I							学期	前期
学科・学年	声優・演劇科 2年次	必/選	選	時間数	105	単位数	3	種別※	実技
担当教員	亀岡真美、阪田佳代		教員の実務経験	有	実務経験の職種		声優		
【科目の目的】 基本発声、滑舌、エチュードを個人、グループワークにて繰り返し習練することにより体得する。また、アニメ、外画、ナレーション、CDドラマ、ラジオなど声優に必要な技術と感情表現を講師が都度用意する台本、映像を使用し、実践しながら学んでいく。									
【科目の概要】 アフレコやプレスコ実習を中心に演技と録音スタジオでの技術を学ぶ。									
【到達目標】 一年次より習練した演技を、具体的かつ明確に、観客・又は求められた現場で可視化することができる。絵に合わせるのではなく、キャラクターの心を表現できるようにする。スタジオでのマナーも身につく。声優という芸能の一分野で社会人として評価され、長期に渡り活動可能な役者になる基盤を作る。さらに演劇を通じ自己を開放、表現することを身につけ、自己肯定感を上げることにより社会組織において、深みのある人間関係を構築できる。									
【授業の注意点】 学生間、学生とのコミュニケーションを重視する。芝居、表現を習得すると同時に、他学生の演技を評価、取り入れる目、耳を養うため、私語や授業態度には厳しく対応する。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験できない。									
評価基準＝ループリック									
ループリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A 【滑舌】	滑舌が明瞭で、意識して聞こうとしていない相手にも、聞き取りづらい言葉が一つも無い	滑舌は良いが、意識して聞こうとしていない相手には、一部聞き取りづらい言葉がある。	滑舌が良く、聞き手が集中していれば、聞き取りづらい言葉が一つもない。	聞き手が集中して聞いていても、時々聞き取れない言葉がある。	聞き手が集中して聞いていても、不明瞭な言葉が多い。				
到達目標 B 【個人のマイクワーク】	自分の声が一番良く入る距離を把握し、発声の音圧が不自然に変化する事が無く、ノイズを立てないように最善の注意を払う事ができる。	自分の声が一番良く入る距離を把握し、ノイズを立てないように最善の注意を払う事ができる。	自分の声が一番良く入る距離を把握し、さまざまなノイズに気付ける事ができる。	さまざまなノイズに気付ける事ができる。	ノイズに気付ける事ができない。				
到達目標 C 【集団のマイクワーク】	マイク前が混雑した時は率先して、マイクの入る場所を提案できる。	共演者と相談しなくても、自分の入るマイクがわかり、スムーズに収録する事ができる。	共演者と相談し合えば、どのマイクに入るかがわかる。	時々どのマイクに入ったら良いかわからなくなるが、自分が演じない時は、マイクから外れる事ができる。	どのマイクに入ったら良いかわからず、自分が演じない時もマイク前にいる。				
到達目標 D 【表現】	演出の指示により表現を自在に変える事ができる。	自分で考え、キャラクターを維持しながら、情景が浮かぶ表現ができる。	アドバイスをもらいながら、キャラクターを維持し、情景が浮かぶ表現ができる。	キャラクターを維持、または情景が浮かぶ表現のどちらかができない。	キャラクターを維持、または情景が浮かぶ表現のどちらもできない。				
到達目標 E 【マナー】	スタジオに余裕を持って入室し、全ての方に挨拶をする事ができ、私語はしない。他の方が収録中も、学ぶ姿勢で居ることができる。	スタジオに余裕を持って入室し、スタジオ入室時に全ての方に挨拶をする事ができ、私語はしない。	スタジオ入室時に全ての方に挨拶をする事ができ、私語はしない。	集合時間に到着した為、挨拶ができなかった人がいる。私語は謹んでいる。	遅刻をした。もしくは私語をする。				
【教科書】 毎回台本を配布する。パソコン・タブレット・スマートフォンなどのモバイルツール、参考資料等は授業内で指示する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 小テストおよび期末テストにより採点。授業への積極性と参加態度を評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		アフレコ I			年度	2026	
英語表記		Postlooping I			学期	前期	
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価	
1	自分の目標を明確にする	マイク前の表現に慣れる	1	アフレコ	アフレコとは何かを学ぶ		
			2	発声・滑舌	発声・滑舌の練習をする		
2	一年次を振り返り、課題を見つける		1	発声・滑舌	発声・滑舌の練習をする		
			2	朗読	相手に向かって語ることを意識する		
3	声優の職業内容、意義を知る		1	挨拶・マナー	スタジオの挨拶・マナーについて学ぶ		
			2	機材説明	機材の使い方を覚える		
4	スタジオ現場を体験		1	発声・滑舌	発声・滑舌の練習をする		
			2	スタジオ体験	映像を見ながら演技をする		
5	声の表現 1		1	スタジオ収録	実際に録音してみる		
			2	フィードバック	録音した音声を聞く		
6	表現の深さ、広がりを知る		1	発声・滑舌	発声・滑舌の練習をする		
			2	専門用語	日本で使われる用語を覚える		
7	スタジオでの実地練習 1		1	発声・滑舌	発声・滑舌の練習をする		
			2	専門用語	アフレコで使われる用語を覚える		
8	社会に出てから必要な力を養う 1		1	発声・滑舌	発声・滑舌の練習をする		
		2	気持ちの流れ	演技のテンションを考える			
9	スタジオでの実地練習 2	1	発声・滑舌	発声・滑舌の練習をする			
		2	演技プラン	自分の演技プランとその結果を考える			
10	社会に出てから必要な力を養う 2	1	発声・滑舌	発声・滑舌の練習をする			
		2	台本読解	台本を読んで芝居の流れを理解する			
11	スタジオでの実地練習 3	1	発声・滑舌	発声・滑舌の練習をする			
		2	アフレコ	マイクの前で集中して演技ができる			
12	課題、スピーチ力を養う 1	1	アフレコ	マイクの前で集中して演技ができる			
		2	グループワーク	お互いの演技を見て学習する			
13	声の表現 2	1	アフレコ	マイクの前で集中して演技ができる			
		2	グループワーク	共演者とのマイクワークを考える			
14	スタジオでの実地練習 4	1	アフレコ	マイクの前で集中して演技ができる			
		2	グループワーク	発声・アクセントなどチェックしあう			
15	社会に出てから必要な力を養う 3	1	アフレコ	マイクの前で集中して演技ができる			
		2	フィードバック	録音したセリフを聞き、客観的に分析する			

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等